

釧路湿原

(くしろしづげん)

位置：北緯43度09分、東経144度26分／標高：3～10m／面積：7863ha／湿地のタイプ：低層湿原、淡水湖、河川／保護の制度：国指定鳥獣保護区特別保護地区、国立公園特別保護地区および特別地域／所在地：北海道釧路市、釧路町、標茶町、鶴居村／登録：1980年6月／国際登録基準：1、2、3／EAAFPネットワーク参加地

湿地のタイプ：低層湿原、淡水湖、河川



釧路湿原



釧路川 (写真：岡田操)

湿地の概要：

釧路湿原は、北海道東部、釧路市の北に広がる1万8000ヘクタールの日本最大の湿原である。かつて海だったが、海が後退し、太平洋との開口部に砂嘴が発達するにつれ汽水湖となり、3000年ほど前から砂嘴の内側の湖底に泥炭の蓄積がはじまって、次第にいまのような湿原が形づくられた。東、北、西をぐるりと丘陵に囲まれ、釧路川、久著呂(くちよる)川、雪裡(せつり)川などが大きく蛇行しながら流れ込み、その支流が湿原を網の目のように走っている。湿原の東側にはシラルト口湖、塘路(とうろ)湖、達古武(たっこぶ)湖の3つの淡水湖沼があり、また湿原には大小のいくつもの沼が点在、ヤチマナコが口を開けている。

泥炭地の約80%がヨシ・スゲ群落とハンノキ林に特徴づけられる低層湿原で、

残りの約20%をヌマガヤ、ヤチヤナギを主とする中間湿原、ミズゴケ群落を主とする高層湿原が占めている。高層湿原にはトキソウ、サワラン、ホロムイソウなど、湖沼群にはセキシヨウモ、タヌキモ、ネムロコウホネ、ミツガシワなど、さまざまな植物が生育している。氷河期の残存種といわれるクシロハナシノブは、この地方の固有種である。

野生動物も哺乳類約26種、鳥類約170種と生物相豊かで、世界的に絶滅の危機にあるタンチョウやオジロワシ、オオワシなども見られる。キタサンシヨウウオの生息地でもある。

タンチョウの保護：

日本では主に北海道東部に生息するタンチョウは、1890年頃、一時は絶滅したと思われていた。しかし1924年、釧路湿原で少数が生き残っているのが発見され、1952年から地元の人々によって給餌が成功し、現在の生息数は約1500羽を超えるまでに回復している。湿原の北西、鶴居村にはタンチョウサンクチュアリがある。

湿原の再生事業：

釧路湿原は面積3万ヘクタールの原生林に囲まれた広大な湿原だったが、流域の経済活動の拡大にともない、湿原面積は著しく減少し、また水位が低下、乾燥化が進み、ヨシやスゲにおおわれていた低層湿原が一部ではハンノキ林に変化してきた。このため、2003年に自然再生推進法が施行されたのをうけて、関係行政機関、NGO、地域住民などにより「釧路湿原自然再生協議会」が設立され、釧路湿原再生の取り組みがおこなわれている。



タンチョウサンクチュアリのタンチョウ

【タンチョウ】全長140cm、翼長250cmの大型のツル。体の色は白で、喉から首にかけて黒色。尾は白いが、翼の後縁に黒い帯状の部分があり、たたむと黒い尾のように見える。日本で繁殖する唯一のツルで、一夫一妻で繁殖し、広い縄張りをもつ。鶴居村などで冬に保護のための給餌がおこなわれている。

●関係自治体

釧路市役所 Tel: 0154-23-5151
釧路町役場 Tel: 0154-62-2111
標茶町役場 Tel: 015-485-2111
鶴居村役場 Tel: 0154-64-2111

